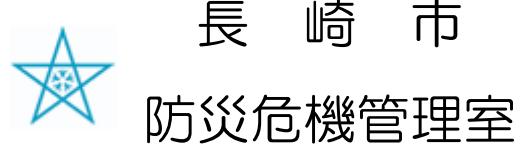


令和 7 年度

市政モニターアンケート調査結果
【 台風等の強風対策について 】



長崎市

防災危機管理室

1. 調査の目的

近年、全国的に台風の大型化や豪雨の頻発など、風水害による被害が深刻化しています。長崎市においても、市民の皆様の安全を守るため、防災・減災対策の強化を進めております。

このアンケートは、皆様の台風等の強風への備えに関するお考えについてお伺いし、今後の市の取り組みの参考とさせていただくために実施しました。

2. 調査の概要

調査期間：令和7年12月5日～令和7年12月21日

送付数：261人

回答率：79.7%（208人）

（郵送回答 117人 インターネット回答 91人）

3. 調査結果

【強風への備えについて】

台風接近時の強風への備えについて、「いつもしている」「することが多い」と回答した人の合計は76.0%に達しており、多くの市民が高い防災意識を持って対策を行っていることが分かりました。一方で、対策を「あまりしない」「まったくしない」と回答した人のうち、約半数に上る46.9%が「自分の住んでいる地域は、被害が少ないと思うから」を理由に挙げており、過去の経験等に基づく「正常性バイアス（自分は大丈夫）」が対策行動の阻害要因となっていることが浮き彫りになりました。市民の皆さんに「どこでも被害は起こりうる」という認識を持っていただくため、強風に対する備えの重要性の周知を強化する必要があります。

【民有地の樹木管理について】

自宅等の樹木について、倒木等の心配が「ある」（「非常に心配している」「ある程度心配している」と回答した人のうち、73.6%が具体的な対策や検討に至っていない（「まだ何もしていない」「特に検討したことではない」）現状が明らかになりました。その理由として、「まだ危険というほどの状態ではない（44.4%）」という自己判断や、「リスクがあるかわからない（29.6%）」「どこに相談すればよいかわからない（25.9%）」といった情報の不足が多く挙げられています。所有者が客観的に危険度を判断できるハザードマップが必要であることが分かりました。

4. 調査結果の見方

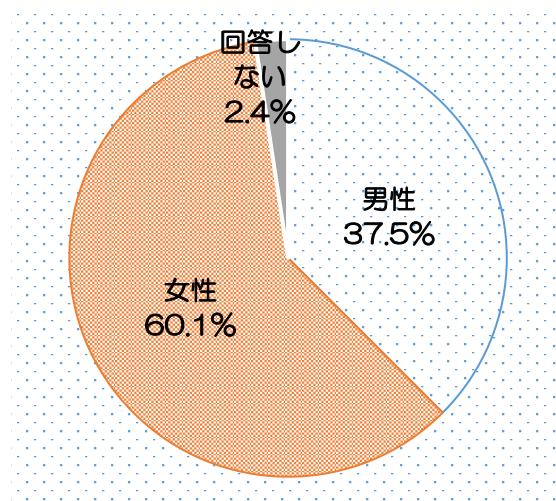
調査結果の数字は、百分率で表記しているものがあり、百分率の値は、小数点以下第2位を四捨五入して、小数点第1位まで表記しています。そのため、内訳を合計しても100パーセントに合致しない場合があります。

また、複数回答可とした設問においては、合計が100パーセントを上回る場合があります。

なお、回答者数の異なる問については、回答者の数を「N=〇〇人」で表現しています。

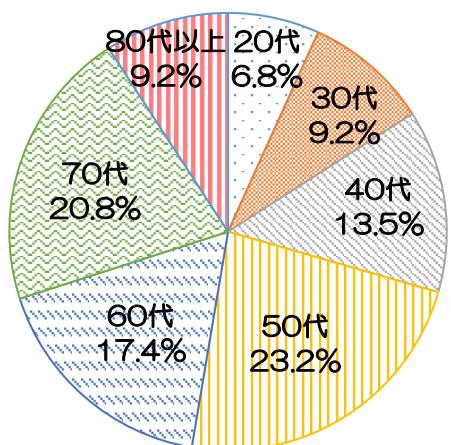
問1 あなたの性別をお答えください。

選択肢	回答者数	割合
男性	78人	37.5%
女性	125人	60.1%
回答しない	5人	2.4%
合計	208人	100.0%



問2 あなたの年齢を選択してください。

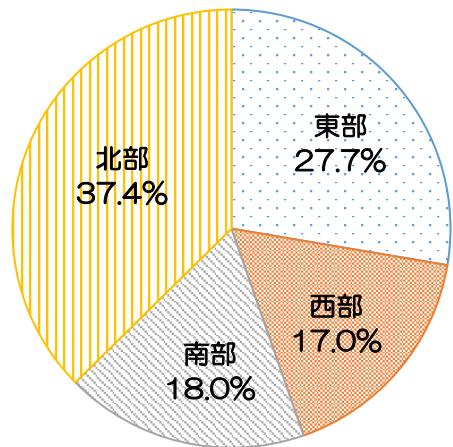
選択肢	回答者数	割合
20代	14人	6.8%
30代	19人	9.2%
40代	28人	13.5%
50代	48人	23.2%
60代	36人	17.4%
70代	43人	20.8%
80代以上	19人	9.2%
合計	207人	100.1%



(無回答 1人)

問3 お住まいの町名を教えてください。

選択肢	回答者数	割合
東部	57人	27.7%
西部	35人	17.0%
南部	37人	18.0%
北部	77人	37.4%
合計	206人	100.1%

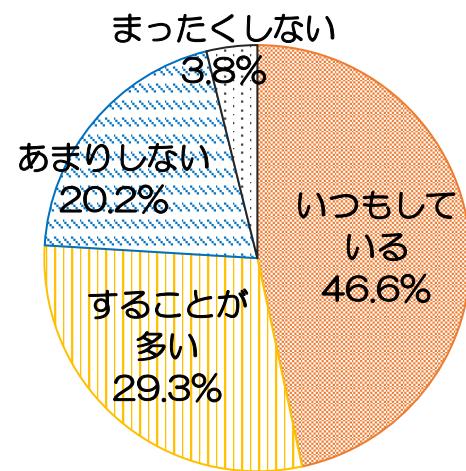


(無回答 2人)

※ご記入いただいた町名をもとに、東西南北に分けて集計しています。

問4 台風の接近が予想される際、強風への備えとして、ご自宅やその周りで何らかの対策をしていますか。（当てはまるものを1つ回答）

選択肢	回答者数	割合
いつもしている	97	46.6%
することが多い	61	29.3%
あまりしない	42	20.2%
まったくしない	8	3.8%
合計	208人	99.9%

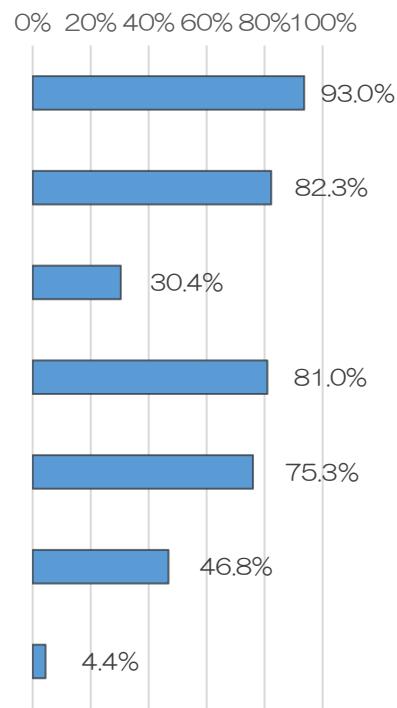


強風への備えを「いつもしている」・「することが多い」と回答した人の合計は 75.9%と高い割合でした。多くの市民が台風接近時には飛散防止等の対策を習慣的に行っていることが分かりました。

一方で、約 4 人に 1 人 (24.0%) は対策を「あまりしない」または「まったくしない」と回答しており、依然として啓発の余地があることが分かりました。

問5 「問4」で「1 いつもしている」「2 することが多い」と回答された方に質問です。具体的にどのような対策をしていますか。(複数回答可)

選択肢	回答者数	割合
庭やベランダにある植木鉢や物干し竿など飛ばされやすいものを片付ける・固定する	147	93.0%
窓や雨戸の鍵をかけ、必要に応じて補強する	130	82.3%
側溝や排水溝を掃除し、水はけをよくしておく	48	30.4%
停電に備えて、懐中電灯やモバイルバッテリーなどを準備する	128	81.0%
断水に備えて、飲料水や生活用水を確保する	119	75.3%
非常食を準備する	74	46.8%
その他※	7	4.4%



(回答者数 158 人、有効回答数 653)

※「その他」の意見

- ・近隣の住民は高齢者が多いため、何か起きた際に動けるよう道具などの準備をしている。
- ・子供に避難場所を知らせる
- ・瓦の破損、飛来を防ぐためのシート
- ・すぐ食べられるような菓子パンやバナナ等を用意しておく。
- ・避難の準備をする。
- ・テレビ、ラジオなどで台風の進路を把握する。防災行政無線
- ・携帯電話の充電

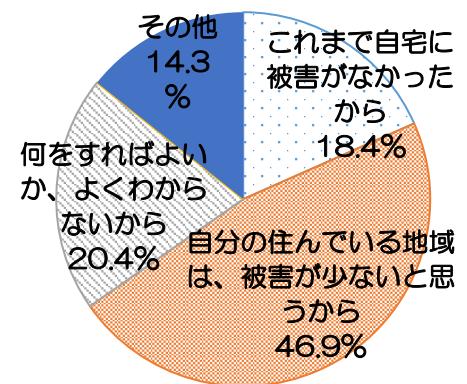
具体的な対策として、「庭やベランダの片付け・固定」が 9 割を超え最も高く、次いで「窓や雨戸の施錠・補強」が 8 割を超えるなど、直接的な風害対策が徹底されていることが分かりました。

また、停電や断水への備えも高い実施率を示していますが、「側溝や排水溝の掃除」は約 3 割にとどまりました。水害防止の観点からも、風対策と合わせた排水対策の重要性を周知する必要があると分かりました。

問6 「問4」で「3 あまりしない」「4 まったくしない」と回答された方に質問です。対策を行っていない最も大きな理由は何ですか。

(当てはまるものを 1 つ回答)

選択肢	回答者数	割合
これまで自宅に被害がなかったから	9	18.4%
自分の住んでいる地域は、被害が少ないと思うから	23	46.9%
何をすればよいか、よくわからないから	10	20.4%
対策をするのが面倒だから	0	0.0%
その他	7	14.3%
回答数	49	100.0%



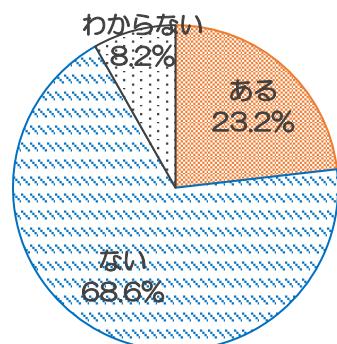
※「その他」の意見

- ・かなり頑丈な作りのマンションなので必要性を感じていない
- ・家の作りを強固にしたので、庭のゴミ箱などを片付ける程度である。

対策を行わない理由として、「自分の住んでいる地域は、被害が少ないと思うから」と回答した人が 46.9% (23 人) と最も多く、次いで「何をすればよいか、よくわからないから」が 20.4% (10 人)、「これまで自宅に被害がなかったから」が 18.4% (9 人) でした。「被害が少ない」「被害がなかった」という回答を合わせると約 6 割を超えており、地域特性や過去の経験による安心感が対策不足につながっていることが分かりました。どんな地域でも被害が起こりうることを認識してもらうための啓発が必要と考えられます。

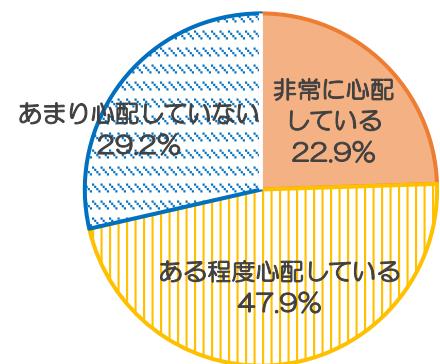
問7 ご自宅の敷地内、道路や隣家などの隣接する敷地、または、ご自身の所有地において、ご自宅や近隣（道路や隣家）に倒れかかる可能性のある庭木や樹木はありますか。(当てはまるものを 1 つ回答)

選択肢	回答者数	割合
ある	48	23.2%
ない	142	68.6%
わからない	17	8.2%
合計	207	100.0%



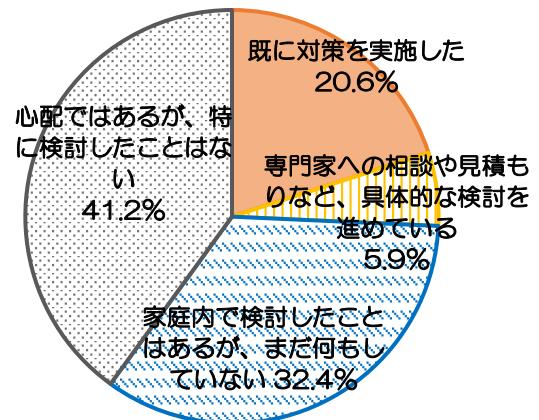
問8 「問7」で「1 ある」と回答された方に質問です。その庭木や樹木が、台風などの強風で倒れたり、枝が折れて飛んだりすることについて、どの程度心配していますか。(当てはまるものを1つ回答)

選択肢	回答者数	割合
非常に心配している	11	22.9%
ある程度心配している	23	47.9%
あまり心配していない	14	29.2%
まったく心配していない	0	0.0%
合計	48	100.0%



問9 「問8」で「1 非常に心配している」「2 ある程度心配している」と回答された方へ質問です。その樹木の伐採や枝切りなどの対策について、実施したり、専門家へ相談する等具体的に検討したりしたことありますか。(当てはまるものを1つ回答)

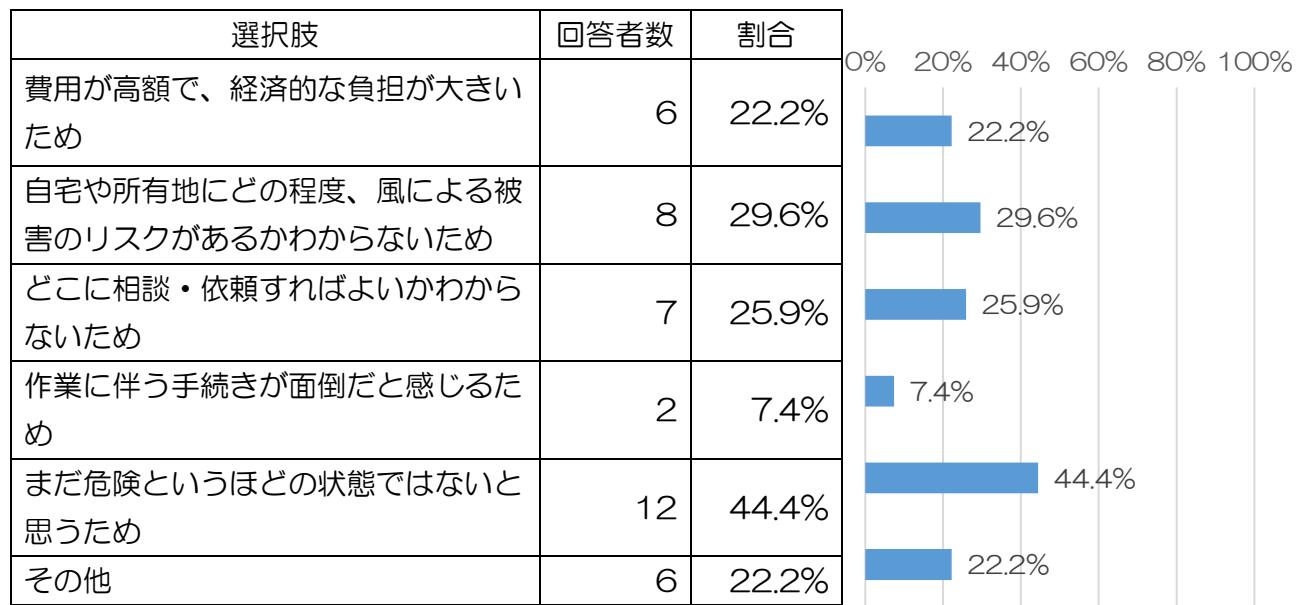
選択肢	回答者数	割合
既に対策を実施した	7	20.6%
専門家への相談や見積もりなど、具体的な検討を進めている	2	5.9%
家庭内で検討したことはあるが、まだ何もしていない	11	32.4%
心配ではあるが、特に検討したことはない	14	41.2%
合計	34	100.1%



倒木等の心配がある人のうち、「既に対策を実施した」「具体的な検討を進めている」と回答した人は合わせて26.5%にとどまりました。

一方で、「家庭内で検討したことはあるが、まだ何もしていない(32.4%)」「心配ではあるが、特に検討したことはない(41.2%)」と回答した人の合計は73.6%に上り、リスクを感じながらも実際の行動に移せていない人が多い現状が浮き彫りになりました。

問10 「問9」で「2 専門家への相談や見積もりなど、具体的な検討を進めている」「3 家庭内で検討したことはあるが、まだ何もしていない」「4 心配ではあるが、特に検討したことはない」と回答された方に質問です。対策が完了していない又は検討を行っていない理由は何ですか。（複数回答可）



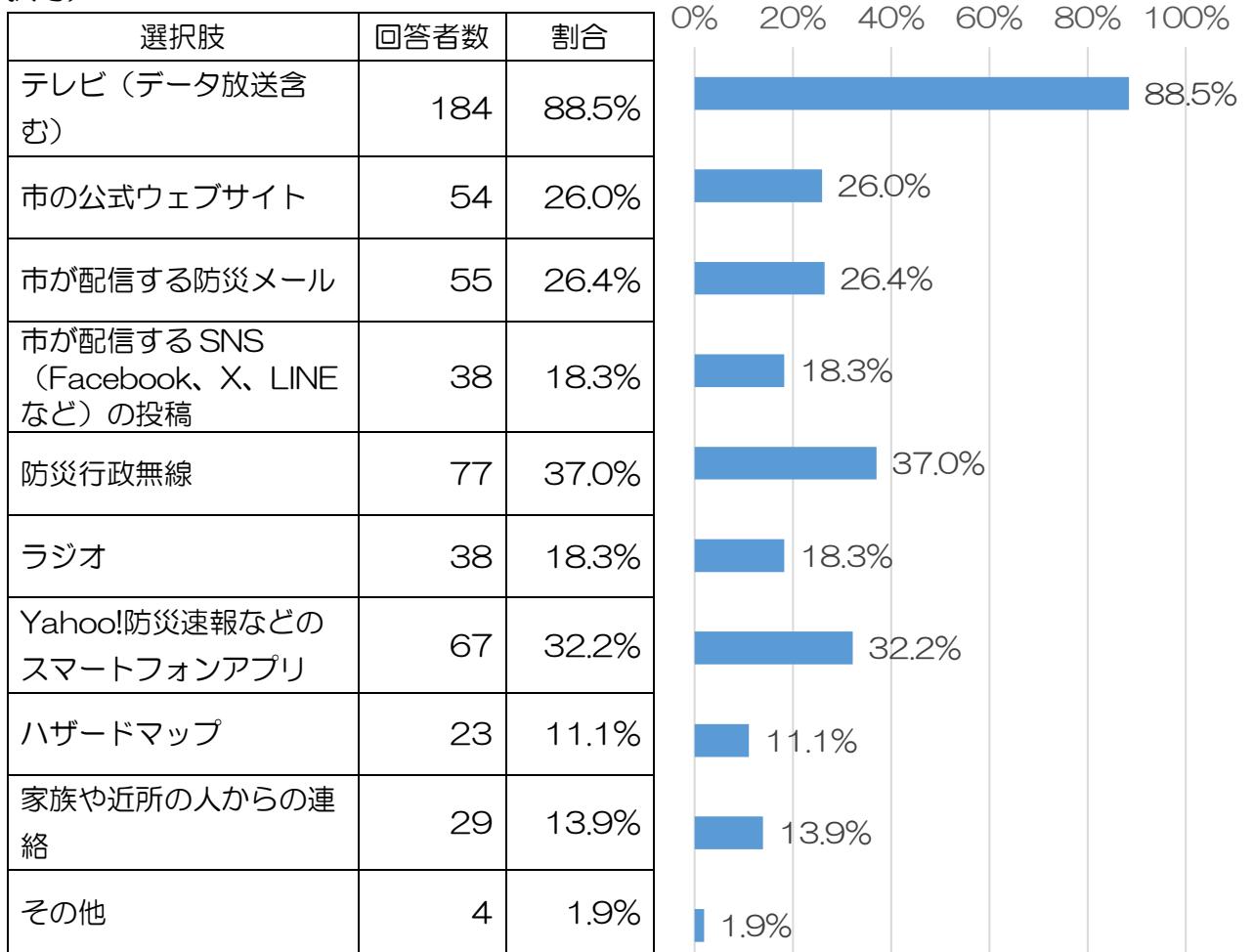
（回答者数 27 人、有効回答数 41）

※「その他」の意見

- ・その家の人が長期不在で連絡がつかないので自治会に相談したが、解決していない。
- ・忙しくてなかなか時間がとれない
- ・自分で伐採しているため
- ・隣人なので口出しできない
- ・道路わきの樹木なので自治体が担当するものと思っていた。

対策に至っていない理由として、「まだ危険というほどの状態ではないと思うため」が 44.4% と最も高く、次いで「リスクがあるかわからない（29.6%）」「どこに相談・依頼すればよいかわからぬ（25.9%）」が続きました。所有者が自己判断で「まだ大丈夫」と考えているケースや、危険性の判断基準や相談先が不明確であることが、対策の遅れにつながっていることが分かりました。適切な管理を促すためには、危険度を可視化する情報の提供や、相談窓口の周知などが必要だと分かりました。

問11 大雨や台風の際に、避難に関する情報（避難指示、避難所の開設状況など）を得るために、利用する（または、利用すると思う）手段は何ですか。（複数選択可）



(回答者数 208人、有効回答数 569)

情報収集手段は、「テレビ（データ放送含む）」が88.5%と圧倒的に多く、依然として最も重要な情報源であることが分かりました。次いで「防災行政無線（37.0%）」、「Yahoo!防災速報などのスマートフォンアプリ（32.2%）」が続きました。「市の公式ウェブサイト」や「市が配信する防災メール」は約26%であり、プッシュ型情報発信（アプリ、メール等）の登録促進や、利用率の高いテレビメディアとの連携強化を引き続き進めていく必要があることが分かりました。

問12 その他、市の防災対策について、ご意見やご要望があれば自由にお書きください。【自由記述】

【要約】

- ・防災無線が聞こえない。
- ・避難所を利用した事がないため、避難する人が収容出来るのか、冬は寒くないのか、夏は暑くないのか不安。高齢の両親が避難所で体調を崩さないか心配。
普段から避難所が開設された場合の状況を知っていると持参するものを想定出来るので良いと思うので定期的にテレビで配信すると良い。
- ・住んでいる町は海辺にあり、地震による津波や洪水などの被害を受ける心配がある。また現在の指定避難所のほとんどが海の傍や川の傍にあり、津波や洪水時の避難先としてはふさわしくないと思われ不安を感じている。避難先の確保の検討を切望している。
- ・台風や強風などの倒木が車を運転している際によくみかける。また、電線にかかる木の枝が多く、早めに伐採などの対応を願う。
- ・通学路や学校付近に剥き出しの崖なども多く、地震や台風後などの通学が心配。
- ・停電復旧状況をアナウンスして欲しい。
- ・避難所開設時 ペットも同行できる避難所があると助かる。
- ・道路脇の側溝に溜まっているゴミなどについて定期的に掃除をする対策を取って欲しい。
- ・台風やその他災害を情報発信するSNS(Xかインスタ)のアカウントを作り、常に気象情報その他火災情報などを情報発信して欲しい。
その際に身近な高齢者に伝えてもらえるように促してはどうか。
- ・防災対策の支援金などあれば教えて欲しい。
- ・災害の記憶をよびおこす活動をもっとしてほしい。7.23の時、水がどの高さまで来たとか。
- ・自分の地域の避難指示、避難所を知りたいけど、どうして知るのか教えて欲しい。
- ・仕事中だとTVや携帯から避難情報を知る事が出来ないので、緊急時は会社宛てのメールアドレスに情報が届く仕組みがあっても良いと思う。